

森林総合研究所アーカイブ公開

昨年11月に創立120周年を迎えた森林総合研究所は記念事業として、森林・林業・木材産業の各分野の研究成果の中から、研究所書庫で保管している歴史的資料569点をデジタル化した「森林総合研究所アーカイブ」を公式サイトで公開しました。データは森林総合研究所(林業試験場)、帝室林野局林業試験場、国有林野特別会計林業試験成績報告書の3カテゴリーに分類し、一部を除きOCR(光学式文字読み取り)処理済みですので、PDF閲覧ソフトなどでテキスト検索が可能です。



歴史的な研究資料をデジタル化し公開した森林総合研究所アーカイブで閲覧できる、1920(大正9)年7月発行の報告集「林業試験彙報第一號」の表紙



一般公開「春の森林講座」

今年の第67回科学技術週間(4月13~19日)の一環として、森林総合研究所は4月25日(土)、地域の方々にどこに研究所を知って頂く一般公開イ

ベント「春の森林講座」を開催します。研究員による講演や構内見学ツアーなどを予定しています。参加無料。詳細が決まり次第、公式サイトなどで案内します。



昨年4月開かれた一般公開「春の森林講座」での研究員講演

ウッドデザイン賞奨励賞で表彰

森林総合研究所などが取り組んだ研究プロジェクト「早生樹等の国産未活用広葉樹材を家具・内装材として利用拡大するための技術開発」がウッドデザイン賞2025奨励賞(ソーシャルデザイン部門)に選ばれ、同プロジェクト総括者で木材加工・特



ウッドデザイン賞2025奨励賞の表彰状を受け取った杉山真樹チーム長(左)と赤池学審査委員長=東京ビッグサイト

性研究領域の杉山真樹特性評価担当チーム長が昨年12月、表彰されました。

同プロジェクトは、センダン、ハノノキ、ホオノキ、コナラ材の利用に当たっての基礎データとなる材質や物理特性などを明らかにすることにも、センダンについて業界の自主規格となりうる板材の品質評価基準の試案を作成するなどしました。森林総合研究所を中心に、山形県工業技術センター、岐阜県生活技術研究所、福岡県農林業総合試験場資源活用研究センター、飛騨産業(株)とともに生研支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」の資金を得て取り組みました。

森林総合研究所研究成果

●接着剤による成虫脱出孔封鎖でクビアカツヤカミキリ防除

桜や梅などのバラ科樹木に深刻な被害を与える特定外来種クビアカツヤカミキリ(以下クビアカ)は、羽化後に樹外へ脱出するための「脱出予定孔」を強力な接着剤で封鎖すると、ほとんど脱出できないことがわかりました。全国的に被害が広がり、街路樹や果樹を守る対策が早急に求められる中、環境負荷の少ない防除技術の確立に役立つ成果です。

研究グループは、クビアカが侵入した栃木県足利市のサクラ計7本で目視確認した脱出予定孔計37か所にに対し、高い接着性と耐久性を持つエポキシ系接着剤を注入して塞いだところ、成虫脱出が観察された孔は



脱出予定孔にエポキシ系接着剤を注入している様子

18・9%でした。

一方で、見落としていた孔や目に見えない孔から脱出した成虫も確認されました。脱出予定孔の検出精度を高めるため、将来的には、画像解析などによる検出技術の導入が期待されます。

本研究は、生研支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」(04015C1)(相次いで侵入した外来クビアカミキリムシから日本の果樹と樹木を守る総合対策手法の確立)の支援を受けて実施されました。

*脱出予定孔:成虫になって樹木から脱出するための孔。クビアカでは、蛹や成虫になる前の幼虫時に掘り、羽化脱出に向けて準備しておくことが知られている。

次号予告

6月発行予定の次号73号は「樹皮の役割と利用」(仮)を特集します。巻頭鼎談では、茨城県大子町で和紙原木コウゾを栽培し加工・販売する大子那須楮保存会の齋藤邦彦会長の作業場を森林資源化学研究領域の楠本倫久主任研究員と木材加工・特性研究領域の平野優研究員が訪ね、楮に懸ける思いや可能性について話を伺いました。お楽しみに。



P.18



P.3, 8, 14



P.3, 8, 14, 16



P.3, 8, 14, 16, 18, 20



◀持続可能な開発目標(SDGs)

森林総合研究所は、森林・林業・木材産業等の幅広い研究を通して、国連の持続可能な開発目標(SDGs)の達成に積極的に貢献しています。該当する目標と記事のページ数は、左記の通りです。

森林総合研究所に関するトピックやイベント、研究成果など最新情報は公式サイトで案内しています▶▶▶



お問い合わせ
森林総合研究所
企画部 広報普及科 広報係
TEL 029-829-8372
Email kouho@ffpri.go.jp